

調査結果の概要

1 高齢者が住む住宅のバリアフリー化率

高齢者が住む住宅の一定のバリアフリー化率は43.5%で、2013年と比べ0.9ポイント上昇

65歳以上の世帯員のいる主世帯（以下「高齢者のいる世帯」という。）118万5400世帯のうち、一定のバリアフリー化住宅に居住している世帯は51万5600世帯で、高齢者のいる世帯に占める割合（以下「一定のバリアフリー化率」という。）は43.5%となっている。また、高度のバリアフリー化住宅に居住している世帯は10万8100世帯で、高齢者のいる世帯に占める割合（以下「高度のバリアフリー化率」という。）は9.1%となっている。2013年と比べると、一定のバリアフリー化率が0.9ポイント上昇したのに対し、高度のバリアフリー化率は0.2ポイント低下している。

一定のバリアフリー化率について住宅の建築の時期別にみると、「2001～2010年」から「2016～2018年9月」までの区分では、いずれも70%を上回っており、その中でも「2016～2018年9月」が74.7%と最も高くなっている。

<表1-1、表1-2>

（注）一定のバリアフリー化住宅とは、人が居住する住宅について、高齢者等のための設備・構造のうち、2箇所以上の「手すりの設置」又は「段差のない屋内」がある住宅をいい、高度のバリアフリー化住宅とは、2箇所以上の「手すりの設置」、「段差のない屋内」及び「廊下などが車いすで通行可能な幅」がいずれもある住宅をいう。

表1-1 高齢者のいる世帯数（一定のバリアフリー化住宅に居住する世帯数、高度のバリアフリー化住宅に居住する世帯数）－愛知県（2013年、2018年）

年次	高齢者のいる世帯数					
	実数（世帯）			割合（%）		
	総数	うち一定のバリアフリー化	うち高度のバリアフリー化	総数	うち一定のバリアフリー化	うち高度のバリアフリー化
2013年	1,082,700	461,200	100,400	100.0	42.6	9.3
2018年	1,185,400	515,600	108,100	100.0	43.5	9.1

表1-2 住宅の建築の時期別高齢者のいる世帯数（一定のバリアフリー化住宅に居住する世帯数、高度のバリアフリー化住宅に居住する世帯数）－愛知県（2018年）

住宅の建築の時期	高齢者のいる世帯数					
	実数（世帯）			割合（%）		
	総数	うち一定のバリアフリー化	うち高度のバリアフリー化	総数	うち一定のバリアフリー化	うち高度のバリアフリー化
総数 1)	1,185,400	515,600	108,100	100.0	43.5	9.1
1970年以前	176,300	68,600	6,200	100.0	38.9	3.5
1971～1980年	278,500	106,300	13,200	100.0	38.2	4.7
1981～1990年	254,700	90,100	8,700	100.0	35.4	3.4
1991～2000年	201,700	99,700	23,700	100.0	49.4	11.8
2001～2010年	125,600	93,700	36,300	100.0	74.6	28.9
2011～2015年	49,400	36,000	13,800	100.0	72.9	27.9
2016～2018年9月	17,000	12,700	5,200	100.0	74.7	30.6

1) 住宅の建築の時期「不詳」を含む。

2 住環境（生活関連施設までの距離）

普通世帯のうち、最寄りの駅までの距離が1,000m未満であるのは47.9%

普通世帯（308万700世帯）について、最寄りの駅までの距離別にみると、「200m未満」が17万5900世帯（普通世帯に占める割合5.7%）、「200～500m未満」が48万4100世帯（同15.7%）、「500～1,000m未満」が81万6100世帯（同26.5%）、「1,000～2,000m未満」が85万6700世帯（同27.8%）、「2,000m以上」が74万7900世帯（同24.3%）となっている。

また、最寄りの駅までの距離が2,000m以上の普通世帯について、最寄りのバス停までの距離別にみると、「100m未満」が10万8000世帯（最寄りの駅までの距離が2,000m以上の普通世帯に占める割合14.4%）、「100～200m未満」が15万8100世帯（同21.1%）、「200～500m未満」が27万3800世帯（同36.6%）、「500～1,000m未満」が12万7200世帯（同17.0%）、「1,000m以上」が8万800世帯（同10.8%）となっている。

<表2-1、図1>

（注）ここでいう駅とは、公営・民営の鉄道や地下鉄、路面電車、モノレールなどの駅又は停留所をいい、貨物のみを扱う駅は含まない。

また、ここでいうバス停とは、公営・民営バス（無料で運行するものを含む。）の停留所をいい、高速（線）バスや、観光バス等主な乗客が住民以外であるような停留所は含まない。

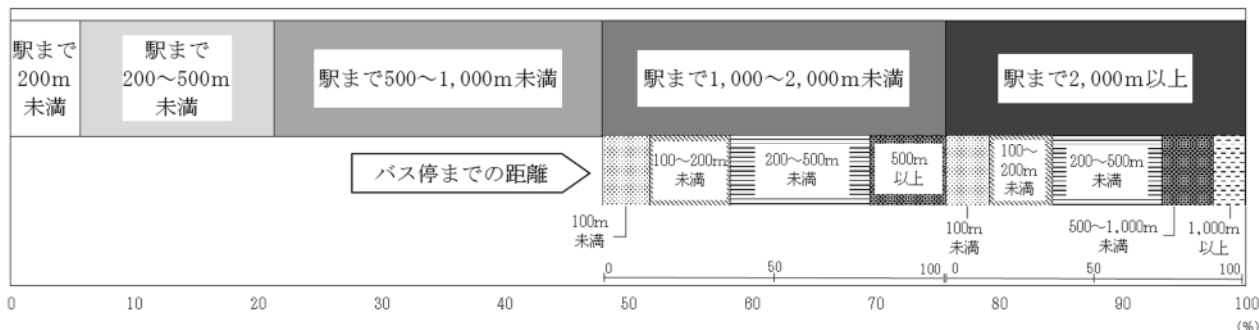
表2-1 最寄りの交通機関までの距離別普通世帯数—愛知県（2018年）

	総数	駅までの距離				バス停までの距離				駅までの距離が2,000m以上の普通世帯					
		200m未満	200～500m未満	500～1,000m未満	1,000～2,000m未満	100m未満	100～200m未満	200～500m未満	500m以上	2,000m以上	バス停まで100m未満	バス停まで100～200m未満	バス停まで200～500m未満	バス停まで500～1,000m未満	バス停まで1,000m以上
実数（世帯）	3,080,700	175,900	484,100	816,100	856,700	116,900	200,800	345,800	193,200	747,900	108,000	158,100	273,800	127,200	80,800
割合-1（%）	100.0	5.7	15.7	26.5	27.8	3.8	6.5	11.2	6.3	24.3	3.5	5.1	8.9	4.1	2.6
割合-2（%）	-	-	-	-	100.0	13.6	23.4	40.4	22.6	100.0	14.4	21.1	36.6	17.0	10.8

○割合-1は、総数における、最寄りの交通機関までの各距離別普通世帯数が占める割合

○割合-2は、駅まで1,000～2,000m未満と駅まで2,000m以上のそれぞれにおける、最寄りのバス停までの各距離別普通世帯数が占める割合

図1 最寄りの交通機関までの距離別普通世帯の割合—愛知県（2018年）



普通世帯のうち、最寄りの医療機関までの距離が500m未満であるのは63.6%

普通世帯について、最寄りの医療機関までの距離別にみると、「250m未満」が94万5700世帯（普通世帯に占める割合30.7%）、「250～500m未満」が101万3900世帯（同32.9%）、「500～1,000m未満」が78万2200世帯（同25.4%）、「1,000m以上」が33万8800世帯（同11.0%）となっている。

<表2-2>

（注）ここでいう医療機関とは、診療科目として内科、外科、あるいは小児科のいずれかを含む常設の病院・医院・診療所をいう。

表2-2 最寄りの医療機関までの距離別普通世帯数—愛知県（2018年）

	総数	250m未満	250～500m未満	500～1,000m未満	1,000m以上
実数（世帯）	3,080,700	945,700	1,013,900	782,200	338,800
割合（%）	100.0	30.7	32.9	25.4	11.0